



只見町ブナセンターだより

1月号

今年もがんばっから、よろしくお願ひします！

カンジキ履けっかやい？

雪の上を歩くためのカンジキは、雪国に欠かせない道具でしたが、だんだん見かけなくなってきました。

今でも自分で作ったカンジキを履いて、雪山に登って猟をしている鈴木侃二(かんじ)さん(只見)に話を聞きました。

Q. カンジキについて教えてけやれ

「昔は除雪車がながったから、朝早く起きて道の雪ふみをしたっぺした。このときは、ばかすねえカンジキのつま先に、長いヒモをつけて、片方ずつ手に持って、右、左、と足を持ち上げて歩くツルカンジキを使った。これは、すっかり見なくなったなあ。

ふだん使うマルカンジキは、今も、わあで作って使ってる。山さ行くときもマルカンジキだあ。ツメカンジキは檜枝岐の方でよく使うようだなあ」

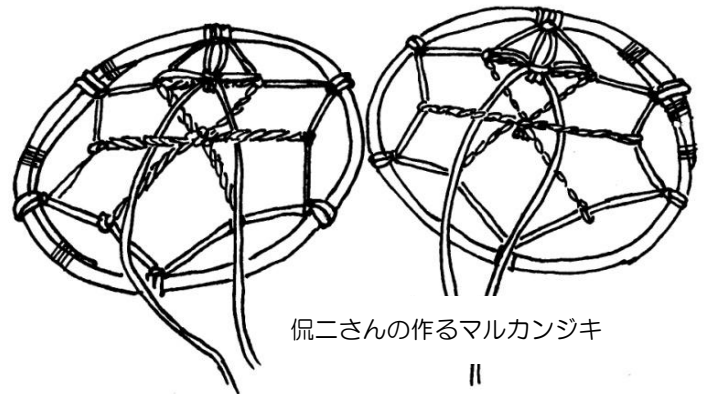
Q. マルカンジキを作る材料は何だや？

「地タケ(チシマザサ、別名・ネマガリタケ)を使う。秋の終わり、雪が降る前に山さ行って、太い地タケをとってくる。生えてから1年のタケでは弱くてだめだ。2年経てば、ふだん使うカンジキに使えるが、山で使うなら3年目のタケが、しなっこくて丈夫でいい。

タケが青いうちに曲げて、針金で輪にして、乾燥させておく。ひと冬越して、よーく乾いたタケは軽くてはきやすい」



チシマザサ(別名・ネマガリタケ)



侃二さんの作るマルカンジキ

||

【侃二さんのカンジキの工夫】

○タケのつなぎめは、外側の先端が後ろを向くように履くと、ツルやシバがはさまりにくい。

○つなぎめやこすれる所はビニールテープを巻いて補強すると、丈夫で雪がつかない。

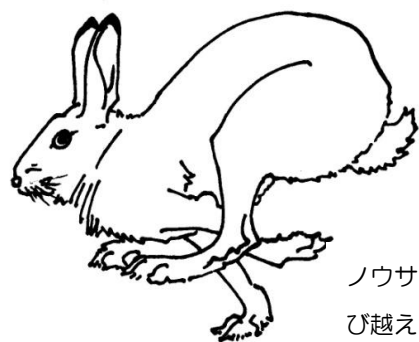
○履くときに、土ふまずの下のヒモを通しておくと、山ではげしく使っても、外れない。

Q. ウサギが減ったと聞か、長年、山に入っていて、そう思いやっかや。

「少なくなったなあ。子めらの天敵のキツネやテン、ハクビシンが増えたせいもあっかもしんねえな。山のウサギは決まった巣を作らねえ。シバの間に、あっちさ1つ、こっちさ1つと、子をなして、親がまわって乳くれて育てるから、親の

いないまに食われちまうんだな。3月の終わりから夏にかけて、3回くらい子をなすみてえだが、3月の子は寒くて育ちが悪い。ワラビ採りのころになると、めげえ子ウサギがいっぱいっぞ。

ウサギは夜行性で、夜は相当の距離を跳ねてまわって木の芽なんかを食べてっけど、朝になっとシバの間さもぐって寝ちまう。だから、ウサギを見たことない人も多いんだべが、案外、どこにでもいる。足跡を見たいなら、黒沢地区と肘折地区の間の山側に、いっぱいついてんぞ」



ノウサギは、前足を飛び越えるように走る

Q. マルカンジキ履いて、ウサギの足跡を見にいってみっぺ。
(聞き手/晶子)

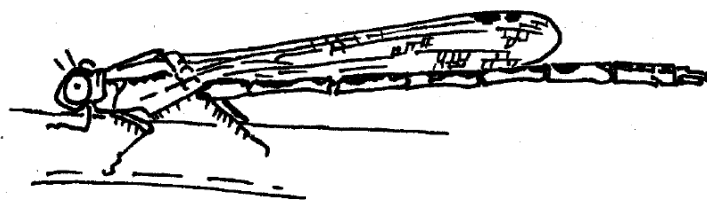
「冬の山はきれいだが危険も多い。雪崩のでる場所には、入っちゃならねえぞ」

連載・ただみの昆虫記 —5

越冬するトンボの楽園

オツネントンボ

トンボ目アオイトトンボ科/越冬蜻蛉



オツネントンボ

トンボは一般に卵または幼虫（ヤゴ）で越冬します。例えば、アカトンボの仲間は卵で、シオカラトンボやギンヤンマ、サナエトンボの仲間は幼虫で越冬し、ムカシトンボのように何年も幼虫で冬を過ごす種もいます。しかし、成虫で越冬する種が日本では3種類（いずれもイトトンボの仲間）知られており、その内の2種類、オツネントンボとホソミオツネントンボが只見町に生息しています。

特にオツネントンボは個体数が多く、春先や10月頃、林縁や草地などで観察されます。厳しい冬を乗り越えるため、越冬に適した場所には集団で集まることがあり、県内の例では門柱の石の隙間に集団で潜り込んでいるのを発見されたことがあります。家の中に入り込む場合もあり、真冬に窓際で見かけることもあります。

一方でオツネントンボは関東地方では絶滅が心配されるほど数が少なく、ほとんど目にする機会はありません。只見町はオツネントンボの楽園といえるでしょう。

筆者●角田亘さん/1974年、只見町小林で生まれ育つ。横須賀市自然・人文博物館研究員を経て、現在は神奈川県で造園業に就く。只見町での昆虫採集をライフワークとし、現在2000種以上を採集。

日本で唯一、皮膚呼吸する山椒魚

ハコネ サンショウウオ

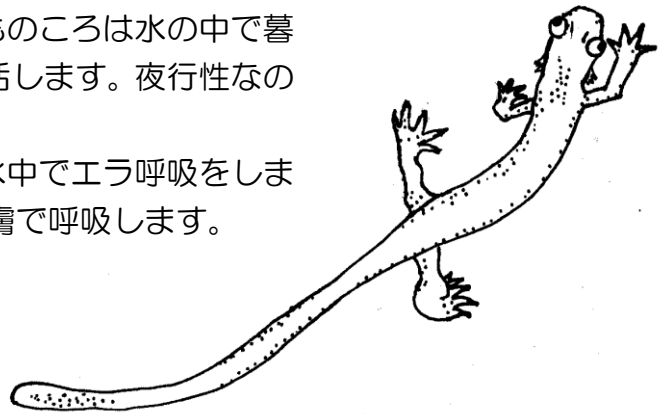
両生綱有尾目サンショウウオ科／箱根山椒魚

山沿いの小さな沢にいます。子どものころは水の中で暮らし、大人になると陸に上がって生活します。夜行性なので昼間は石や倒木の陰で寝ています。

幼生のときは小さなエラがあり、水中でエラ呼吸をしますが、大人になって陸にあがると皮膚で呼吸します。

前足に4本、後ろ足に5本の指があり、するどい爪で岩を登ります。

ブログに、ぼくがオジサンみたいなポーズをした写真が載っているから、探してみてね



【町内の自然とふれあうイベント情報】

2月5(土)・6(日)

○雪像作り体験

会場：只見町ブナセンター

主催：只見町ブナセンター友の会

問い合わせ：0241-72-8355

2月12日(土)・13日(日)

○第39回只見ふるさとの雪まつり

会場：JR只見駅前広場

主催：只見ふるさとの雪まつり実行委員会

問い合わせ：0241-82-5240

2月13日(日)・14日(月)、3月6日(日)

○スノーアドベンチャー

会場：只見スキー場

参加費：1000円

主催：会津ただみ振興公社

問い合わせ：0241-82-5250

只見町観光まちづくり協会

3月5日(土)・6日(日)

○春休み雪中キャンプ

集合場所：季の郷・湯ら里 午前10時

参加費：4000円

参加資格：小学3年～中学3年

主催：ただみコミュニティークラブ

問い合わせ：0241-86-2671

URL <http://www.tadami.info>

■ブナを知ろう ⑥

コケの位置で雪の深さがわかる



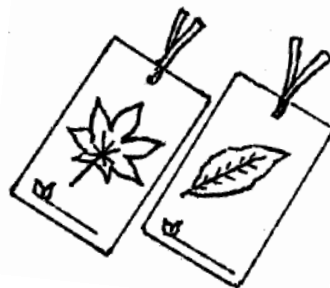
○ブナの幹を見上げると、とても高い位置に黒々としたコケが生えています。これは雪に埋まらない高さに生えるので、その位置から積雪の深さがイメージできます。

○いまごろ山のブナ林は、深い雪に覆われています。

【てわっさ工房】

ただみ・ブナと川のミュージアム内のでわっさ工房では、冬期間中も只見で採れた木や木の葉を使ったクラフトなどの“てわっさ”の体験ができます。手作りのお土産も喜ばれるかも…

- 木エクラフト体験 材料費 100 円
- 木の葉クラフト体験 材料費実費
(しおり・葉書き)1枚 100 円程度
入館料+材料費で体験できます。



木の葉を使った葉書

※小学生以下のお子さんは保護者同伴でお願いします

木の葉の葉

【特別展示】 開催中～平成 23 年 2 月 28 日（月）

「只見の民具とその素材展」

只見町には、祖先から受け継いできた数多くの民具があります。企画展は、只見の先人たちの知恵や創意工夫を特集しています。国重要文化財指定の民具も展示しています。

【おしらせ】

●ただみ・ブナと川のミュージアムは、冬季も開館しています！

雪まつり期間中も開館しています。歩き疲れたら、1Fの暖かい休憩室で、コーヒーでも飲みながらゆっくり雪景色を堪能して下さい。ご家族連れのお客さまも大歓迎。各クラフトも随時体験していただけます。

●2月5日（土）・6日（日）は、友の会で雪像作りをします。（ミュージアム前にて）雪像づくりも体験できます。詳しくは只見町ブナセンターまでお問い合わせください

【お願い】

●ブナセンターでは、かんじきの体験なども企画中です。ご家庭でいらなくなって余っているスキースtockやかんじきがありましたらブナセンターに寄付していただけますか？ぜひご協力をお願いいたします。



Tel 0241 (72) 8355 fax 0241 (72) 8356
〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下
2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内

web サイト <http://www.tadami-buna.jp>

ブログ <http://tadamibuna.blog2.fc2.com/>

E-mail info-buna@amail.plala.or.jp

